

# 第 680 回

## 日本小児科学会東京都地方会講話会

### プログラム

日 時 2022年3月12日(土) 午後2時00分

新型コロナウイルス感染拡大防止のため東京都地方会講話会は、来場での開催を模索しておりましたが、今年度は Live Zoom 講話会の開催とさせていただきます。何卒ご理解頂きますようお願い致します。

参加費につきましては無料となりますが、学術集会への参加単位の発行はございません。教育講演の聴講単位につきましては、後日オンデマンド講習としてご案内致します。詳細につきましては、ホームページや郵送にてご連絡させていただきます。

お時間の許す限り、ご参加頂きますようお願い致します。

参加方法につきましてはホームページをご参照ください。

なお、本プログラムに第 676 回講話会教育講演のオンデマンド配信のご案内を掲載させて頂いておりますので、ご確認ください。

次回以降開催予定日

2022年5月14日(土) (開催方法は決まり次第お知らせいたします)

2022年6月11日(土) (開催方法は決まり次第お知らせいたします)

2022年7月23日(土) (開催方法は決まり次第お知らせいたします)

世話人

プログラム係

慶應義塾大学小児科

古道 一樹

03 (3353) 1211

(FAX) 03 (5379) 1978

会 場 係

日本医科大学小児科

榎崎 秀彦

03 (3822) 2131

(FAX) 03 (5685) 1792

事 務 局 (TEL・FAX) 048 (706) 7196

e-mail : jpstokyo-office@ab.auone-net.jp

# 第 680 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内、厳守のこと。○印演者)

## 第 1 グループ 14:00—14:25

座長 住友 典子 (国立精神・神経医療研究センター小児神経科)

### 1) 前頭縫合早期癒合症の早期診断のために — 8 例の検討から —

○古澤 恭兵、野崎翔太郎、西 恵美里、及川 裕之、富田健太郎、武内 俊樹、坂本 好昭、三輪 点、高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科)

前頭縫合早期癒合症は1歳未満での手術が望ましいが、特徴的とされる三角頭蓋は乳児期に不明瞭であり、早期診断には前頭部隆起が重要である。2019 年以降に当院で手術を行った 8 例のうち 5 例は前頭部隆起が唯一の所見であり、健診では異常なしとされていた。小児の前頭部隆起は専門機関に相談すべきと思われる。

### 2) けいれん発作を契機に診断に至った視床下部過誤腫の 1 例

○山口 修平<sup>1)</sup>、高橋 快斗<sup>1)</sup>、大江俊太郎<sup>1)</sup>、桂 美遥<sup>1)</sup>、高田 啓志<sup>1)</sup>、坂野 沙里<sup>1)</sup>、前田 直則<sup>1)</sup>、簗生なおみ<sup>1)</sup>、佐藤利永子<sup>1)</sup>、鈴木 絵理<sup>1)</sup>、山澤 一樹<sup>1)</sup>、藤田 尚代<sup>1)</sup>、早川 格<sup>2)</sup>、吉井 啓介<sup>3)</sup>、寺島 慶太<sup>4)</sup>、三春 晶嗣<sup>1)</sup>  
(国立病院機構東京医療センター小児科)<sup>1)</sup>、  
(国立成育医療研究センター神経内科)<sup>2)</sup>、(同 内分泌代謝科)<sup>3)</sup>、(同 脳神経腫瘍科)<sup>4)</sup>

7 か月男児。生後 2 か月ころから覚醒時に 10 秒程度の眼瞼下垂を伴う上下肢の不随意運動が出現した。7 か月健診で初めて小児科医が動画を見て精査となった。MRI 検査で 3cm 大の視床下部腫瘍を認め、中枢性思春期早発を伴う視床下部過誤腫と診断した。抗てんかん薬、GnRH アゴニストを開始し、1 歳半ころに定位熱凝固術を予定している。

指定発言 白水 洋史 (国立病院機構西新潟中央病院機能脳神経外科視床下部過誤腫センター)

## 第 2 グループ 14:25—14:45

座長 山田 悠司 (国立成育医療研究センター小児がんセンター)

### 3) HLA 一致同胞からの骨髄移植後に晩期生着不全をきたしたため同一ドナーからのミニ移植を行った再生不良性貧血の 1 例

○郡司 優希、下澤 克宜、植野 優、平井麻衣子、谷ヶ崎 博、森岡 一朗 (日本大学小児科)

17 歳男子。特発性再生不良性貧血で HLA 一致同胞間骨髄移植 1 年半後に汎血球減少をきたした。CD3<sup>+</sup>T 細胞分画で 91%、CD33<sup>+</sup> 顆粒球分画で 21% がドナーキメラリズムであった。拒絶よりもドナー造血細胞の造血不全が主な病態と考え、同一ドナーから骨髄非破壊の前処置による末梢血幹細胞移植を行った。再移植の経過を報告する。

### 4) 発熱を契機に汎血球減少となり、血球上昇に約 1 か月を呈した 1 例

○山田 舞、新井 健人、縣 一志、千代反田雅子、長尾 竜兵、西亦 繁雄、河島 尚志  
(東京医科大学小児科・思春期科学分野)

1 歳 9 か月女児。6 日間の発熱で、経口カルバペネム系抗菌薬が投与されていたが、汎血球減少を認め入院した。汎血球減少の原因として、ウイルス感染、薬剤性、血液腫瘍などがある。各種ウイルス検査は陰性、骨髄検査では悪性所見を認めず、汎血球減少の回復には約 1 か月を要した。抗菌薬投与後の汎血球減少につき文献的考察を含めて報告する。

休 憩 14:45—14:50

感染症だより 14:50—15:10 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 齋藤 義弘 (医療法人社団めぐみ会自由が丘メディカルプラザ小児科)

森野 紗衣子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:10—16:20 (講演:60分+質疑応答:10分)

座長 岡橋 彩 (日本大学小児科)

サイトカインプロファイル解析からみた小児炎症性疾患の病態と治療戦略

清水 正樹 (東京医科歯科大学大学院小児地域成育医療学)

小児の炎症性疾患では、過剰な免疫応答により生体の恒常性維持機構が破綻し、炎症性サイトカインが過剰に産生され重症化病態が引き起こされる。本講演では、サイトカインストームが重症化病態に関与する全身型若年性特発性関節炎と川崎病を中心に、サイトカインプロファイル解析からみた炎症病態とそれに基づく治療戦略について考えたい。

休 憩 16:20—16:25

第3グループ 16:25—16:55

座長 山田 全毅 (国立成育医療研究センター)

高度感染症深部/小児内科系専門診療部感染症科)

5) 母体スクリーニング検査陰性にも関わらず新生児 *Chlamydia trachomatis* 肺炎を発症した1例

○久富衣璃菜<sup>1)</sup>、永田 万純<sup>1),2)</sup>、宮平 憲<sup>1)</sup>、瀧 栄志郎<sup>1)</sup>、草場香菜子<sup>1)</sup>、松本 孝子<sup>1)</sup>、坂口 慶太<sup>1)</sup>、清水 俊明<sup>2)</sup>

(東京都保健医療公社東部地域病院小児科)<sup>1)</sup>、(順天堂大学小児科)<sup>2)</sup>

日齢23の男児。持続する咳嗽と多呼吸を主訴に当院を受診した。胸部単純X線検査ですりガラス状陰影を認め、PCR検査でクラミジア肺炎と診断した。母親の妊娠中のPCR検査は陰性、本児診断後の再検査で陽性となった。ハイリスク母体におけるスクリーニング検査時期の再考や周産期歴によらず新生児肺炎の鑑別にクラミジアを挙げることが望まれる。

6) ヒトメタニューモウイルス感染症による間質性肺炎の乳児例

○田中友香里、清水 翔一、大島 正成、藤澤 惇平、中崎 公隆、並木 秀匡、諸橋 環、森岡 一朗 (日本大学小児科)

2か月女児。日齢16から咳嗽、体重増加不良を認め前医に入院した。抗原検査結果からヒトメタニューモウイルス(hMPV)肺炎と診断されたが、努力呼吸、酸素化不良を認め当院に転院した。各種検査より間質性肺炎と診断し、非侵襲的陽圧換気療法、ステロイド治療で改善した。hMPV肺炎の増悪時は間質性肺炎の合併も考慮すべきである。

## 7) 新型コロナウイルス第6波の小児入院患者の臨床像

○飯島 弘之、前川 貴伸、窪田 満

(国立成育医療研究センター総合診療科)

2022年1月現在、B.1.1.529系統の変異株（オミクロン株）の国内における急速な感染拡大により、新型コロナウイルスの新規患者数は急速に増加している。小児患者は成人と比較して軽症であることが知られているが、患者数の増加に伴い、第5波までと比較して小児入院患者に対する抗ウイルス薬の使用頻度が増加しているため、その臨床像を報告する。

## 第4グループ 16:55—17:35

座長 森田 久美子（東京都立小児総合医療センター総合診療部アレルギー科）

## 8) 急性肝炎様の臨床所見で発症したTAFRO症候群の1例

○橋本わかば、稲毛 英介、山崎 晋、松本 恵、神保 圭佑、鈴木 光幸、三森 愛美、  
新井 喜康、中村 明雄、遠藤 周、安部 信平、春名 英典、清水 俊明

(順天堂大学小児科)

15歳女子。弛張熱と全身浮腫を主訴に入院。血小板数減少、CRP高値、腹水、肝腫大、門脈周囲および胆嚢浮腫を認め、急性肝炎が疑われ当院に転院。経過中、腎障害を併発した。骨髓検査、頸部リンパ節病理所見および肝病理所見からTAFRO症候群と診断した。ステロイド単剤で病勢を沈静化できず、トシリズマブを併用し退院とした。

**指定発言** 森 雅亮（聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科）

## 9) 管理と鑑別に難渋した食物蛋白誘発胃腸症の1例

○小森 和磨、絹巻 暁子、田中 裕之、内田 要、高橋 千恵、梶保 祐子、神田祥一郎、  
張田 豊、加藤 元博

(東京大学小児科)

2ヶ月男児。前夜からの嘔吐と下痢を主訴に来院した。電解質に富む水様便が持続し分泌性下痢症と診断した。管理に難渋し経過中ショックを呈した。遺伝学的検査を含めた精査を行いTARC高値から食物蛋白誘発胃腸症と診断した。改善までに3週間の絶飲食期間を要した。本症は重篤化し得るため全身管理と並行して診断を進める必要がある。

**指定発言** 成田 雅美（杏林大学小児科）

## 10) 頸動脈超音波検査が有用であった高安動脈炎の女児例

○松岡 高弘、金子 修也、真保 麻実、伊良 部仁、清水 正樹、森尾 友宏

(東京医科歯科大学小児科)

8歳女児。抗菌薬、川崎病治療に反応しない2週間持続する不明熱のため当科紹介された。頸動脈超音波検査で鎖骨下動脈と内頸動脈の起始部の壁肥厚を認めたことを契機に高安動脈炎の診断に至った。不明熱では高安動脈炎が重要な鑑別疾患の一つであり、早期の血管病変の検出に優れる頸動脈超音波検査がその診断に有用であった。

## 【運営委員会だより】

1. 2022年2月の運営委員会はメール審議で行った。今回の講話会もLive Zoomのみの開催となった。参加者は135名。(3月の講話会もWeb開催とする。)
2. 第680回講話会のプログラム編成について承認された。
3. 第680回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が確認された。
4. 第674回講話会(2021.7.17開催)の教育講演は小児科領域講習としてオンデマンド配信され、300名が前登録され198名に聴講頂き、177名に聴講証が発行された。
5. 2022年2月予定の幹事会議案、資料が承認された。ご意見は、グーグルフォームでご回答いただく事とした。
6. 新幹事89名が運営委員会にて承認された。
7. 東京都地方会ホームページを改定することとした。

## 【演題の申し込みについてのお願い】

- 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- 原則として指定発言をつけて下さい。(共同演者から指定発言は頂けません)
- 演題の締切は次のようになります。
- 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承ください。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年11月30日	2月	前年12月25日	3月	1月31日
5月	2月28日	6月	4月22日	7月	5月31日
9月	6月30日	10月	8月31日	12月	9月30日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先のご発表となることがありますのでご了承ください。その場合、事務局よりご連絡します。

## 【座長・演者の先生方へのお願い】

- 講話会当日、ログインした際に、チャット機能を用いて事務局および進行係へログインした事をお知らせ下さい。

## 【演者の先生方へのお願い】

- 一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願い致します(原稿はワード入力力でe-mailにて事務局へ、ご発表後月末までにお送り下さい)。
- 参加した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後(または適切な時期)にTake Home Message(この発表から学ぶこと)を手短かな一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

## 【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所(プログラム送付先)等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- 退会される場合も必ずご連絡下さい。お届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

## 【事務局よりご連絡】

- 3月12日の東京都地方会講話会はLive Zoom講話会として開催させて頂きます。来場での開催はございませんので、ご注意ください。  
参加費は無料となりますが、学術集会の参加単位(iv-B貼付用)の発行はございませんのでご了承ください。小児科領域講習の聴講証(iii貼付用)につきましては、オンデマンド配信で単位が取得できるように申請させて頂きます。単位が付与されましたら、ホームページでご案内させて頂きます。  
ご参加頂くには学会ホームページの講話会プログラム(会員専用)にアクセスして頂きますようお願い致します。アクセスするには全会員共通となりますが、ユーザー名:tokyoとPWD:jps-tが必要となります。ホームページの『開催のお知らせ』に参加URLを掲載致します。
- 2022年3月より事務局連絡先が下記に変更となります。  
Tel・FAX:048-706-7196 メールアドレス:jpstokyo-office@ab.auone-net.jp  
どうぞよろしくお願い致します。

## Presentation について

発表者の PC にて Zoom の画面共有で発表して頂きます。スムーズな会の進行のため、なるべく高速で安定しているネット回線環境（可能であれば有線 LAN）と、安定している最新版 Zoom のご用意をお願い致します。発表当日以前に事務局で接続テストの時間を設けますので、必ず接続確認と動作確認を行うよう、よろしくをお願い致します。接続テストの具体的な日程は座長・発表者に事務局よりご連絡致します。また、発表当日は動作が不安定にならないように、バックグラウンドで不要なソフトを動かさないようご協力よろしくをお願い致します。

## 動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承ください。

# 第 676 回東京都地方会講話会教育講演 オンデマンド配信のご案内

2021年10月11日（土）に行われました第676回東京都地方会講話会教育講演の小児科領域講習単位は、講演視聴と設問解答後、合格者には聴講証がダウンロード頂けるようになります。

**演題名** 食物アレルギーの発症予防 アレルギーマーチの観点から

**演者** 成田 雅美 先生（杏林大学医学部小児科学教室）

**視聴方法** 下記Googleフォームよりご登録をお願い致します。  
（後日、視聴用 URL をお知らせいたします。）

<https://forms.gle/VTZGTH1ufnrNsQVG8>

**前登録期間** 2022年3月8日（火）～3月15日（火）

前登録された方には後日参加 URL とパスワードをお知らせ致します。  
視聴期間は2022年3月23日（水）12:00～3月29日（火）12:00とさせていただきます。  
何卒よろしくお願い致します。

なお、2022年3月12日の東京都地方会講話会は、Web開催の予定となっております（詳細が決まりましたらHP等でご案内いたします）。

また、教育講演の聴講単位はオンデマンド配信となります。

以上

2022年3月1日

【お問い合わせ】

日本小児科学会東京都地方会事務局

TEL:048-706-7196

e-mail: jpstokyo-office@ab.auone-net.jp